

ドイツ映画祭
2023

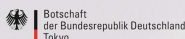


道を拓く女たち
Frauenpower

FESTIVAL DES DEUTSCHEN FILMS
HORIZONTE

2023

4.20 [木] - 23 [日] ユーロライブ (渋谷)



**GOETHE
INSTITUT**

Sprache. Kultur. Deutschland.

ドイツ映画祭 HORIZONTE 2023

「柔らかくしなやかに、だが全力で成果を勝ち取る。」今年のドイツ映画祭 HORIZONTE 2023のオープニング作品『フェモクラシー』でインタビューに応える、リタ・ジュースムート(元連邦議会議員)の言葉です。本作は、戦後再出発した西ドイツから統一後メルケル政権時代までのドイツの政治における女性パイオニアたちを描いています。彼女たちは、男性議員や世間から激しい攻撃を受けながらも、政治と社会の中で居場所を掴み取っていきました。登場する女性たちは明るくウィットに富んでおり、彼女たちのそんな魅力が未知の領域へ進出する際の最強の武器であったことが見てとれます。

今年のドイツ映画祭では、そのような女性たちにフォーカスします。「与えられた」状況を疑わずに受け入れるのではなく、複雑化し急激に変化する現実に対峙し、その中で方向性を見出す女性たち。彼女たちは、自分自身も変わりながら、変化と共に生きるのです。今年のプログラムでは7作品中4本が女性監督によるものです。ドイツ映画の立ち位置を示す7作品が、若々しく新鮮な声を届けます。

フェモクラシー 不屈の女たち

監督: トルステン・ケルナー/ドイツ/2021年/100分

オープニング作品 Eröffnungsfilm
日本初公開 Japanese Premiere



ゾーパンで議会に立った緑の党の女性たち、中絶論争、反核運動——ドイツ連邦議会の女性議員の歩みを戦後からメルケル政権時代まで追うドキュメンタリー。民主的な決定過程への参加を求め、成功と肩書の上にふんぞり返った男性たちを相手に闘った女性議員のパイオニアたち。セクハラと先入観に臆することなく自分の道を目指す女性たちの姿は頼もしくウィットに富んでおり、勇気を与えてくれる。ジャーナリストでもあるケルナー監督は、アーカイブ映像を織り交ぜながら、当時の女性政治家たちにインタビューを行った。彼女たちの思い出話も、可笑しくも苦く、不条理で、時に恐ろしいほどに現在に通じるものがある。西ドイツの過去を多角的に振り返ることで、現在と未来に貴重な示唆を与えてくれる、洞察に満ち溢れた作品。

オープニングトーク 4.20 [木] 19:00- ユーロライブ(渋谷)

映画にも登場する緑の党の元連邦議会議員クリスタ・ニッケルスが来日! U30の政治参加を促進するNo Youth No Japanの能條桃子と対談します。観覧にはチケットが必要です。



クリスタ・ニッケルス
1952年生まれ。ドイツ連邦議会議員を5期務める。『フェモクラシー 不屈の女たち』に登場する女性議員の一人。



能條桃子
1998年生まれ。政治家のジェンダー平等を促進する活動FIFTYS PROJECTを立ち上げ、代表理事を務める。

Die Unbeugsamen

私はニコ

監督: エリーヌ・ゲーリング/ドイツ/2021年/79分

日本初公開 Japanese Premiere
2021年First Steps Award No Fear賞



イラン系ドイツ人のニコは介護の仕事をしている。明るく前向きな性格のニコは、気さくで親身な対応から利用者たちにも人気がある。親友のローザとベルリンの夏を楽しんでいたが、ある日、人種差別的な理由から路上で襲撃を受ける。事件を境に、以前の明るさを失い、周りとの距離を置くようになってゆくニコ。それまで当たり前だった日常は不安に侵され、友人や患者とのつながりも薄れてゆく。本作は、ニコが空手のトレーニングや人との出会い、ローザの支えを通じて、危機を乗り越えてゆく過程を繊細かつパワフルに描く。

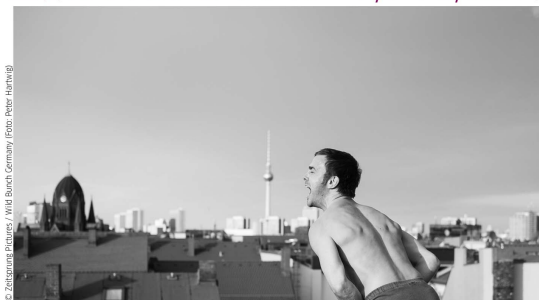
主演のサラ・ファジラットが、プロデューサーも務めた作品で、数々の賞に輝いた。監督とカメラも同世代の女性で、3人が共同で脚本を手掛けた本作には、等身大のベルリンが映し出されている。

Nico

ディア・トーマス 東西ドイツの狭間で

監督: アンドレアス・クライナート/ドイツ/2021年/150分

日本初公開 Japanese Premiere
2021年タリン・ブラックナイト映画祭グランプリ
2022年ドイツ映画賞9部門受賞



第二次世界大戦中にイギリスに亡命していたユダヤ人のブラッシュー家は、文化副大臣を務めた父ホルストをはじめ、ドイツ民主共和国(旧東ドイツ)の建国に貢献した。作家志望の息子トーマスは、1968年、プラハの春に賛同、ソ連の軍事介入に反対し抗議運動にかかわり、その活動により逮捕、投獄される。保護観察処分付きで仮釈放されたブラッシューは、工場で働きながら愛や革命、死をテーマに執筆活動をする。しかし、東ドイツでの作品の出版が禁じられ、1976年亡命した西ドイツで成功するも、西側にも溶け込めない。分断ドイツのイデオロギーと価値感に、芸術を通じて挑み続け、人生を通して居場所を求め続けた作家、映画監督、演出家、脚本家トーマス・ブラッシュー。反骨精神と矛盾を抱えた天才的芸術家の物語。

Lieber Thomas

バッハマン先生の教室

監督:マリア・シュペート/ドイツ/2021年/217分



ドイツ中央西部ヘッセン州のシュタットアレンドルフ。人口約21,000人のうち70%が移民の背景を持ち、うち約5,000人がイスラム教徒という工業都市。そんなシュタットアレンドルフのとある中学校で、定年を間近に控えた教師ディーター・バッハマンは、12歳から14歳、12か国の子どもたちが在籍する6年B組を担任する。母語もメンタリティーも多様な生徒たちと、音楽やジャグリングで遊びながら授業するバッハマン先生のクラスを1年間追ったドキュメンタリー。時に能天気になら見えるバッハマン先生が生徒一人ひとりと真摯に向き合う姿と、その中で悩みぶつかりながらも成長していく子どもたちから目が離せない。多文化社会での共生について、教育の未来についての示唆に富んだ作品。

劇場初公開 Japanese Kinopremiere

第71回ベルリン国際映画祭銀熊賞&観客賞

Herr Bachmann und seine Klasse

クルナス母さんvs.アメリカ大統領

監督:アンドレアス・ドレーゼン/ドイツ・フランス/2022年/119分



ドイツ生まれのトルコ人のムラト・クルナスが訴訟も裁判もないままアメリカ軍のグアンタナモ湾収容キャンプに収容された。ムラトの母親で専業主婦のラビエは、海外で苦しむ息子を助けるため奔走するが、警察や行政に相談を重ねても埒が明かない。ある日、ラビエは人権弁護士ベルンハルト・ドックと出会う。そして理性的でドライなドックとエネルギッシュなラビエ母さんが、アメリカの合衆国最高裁判所でジョージW.ブッシュ大統領を相手に訴訟を起こすことに。シリアスなテーマを扱いながら、コメディタッチでユーモラスでもある本作。主演を務めるコメディアンメルテム・カプタンは、ベルリン国際映画祭で最優秀主演俳優賞に贈られる銀熊賞に輝いた。

日本初公開 Japanese Premiere

第72回ベルリン国際映画祭脚本賞&優秀俳優賞

Rabiye Kurnaz vs. George W. Bush

あしたの空模様

監督:アニカ・ピンスケ/ドイツ/2022年/89分



生まれ育った旧東ドイツの田舎から脱出し、成功への道を歩むアラフォーのクララ。ベルリンで研究者としてのキャリアを積みながら、シェアハウス暮らし、ティーンエイジャーの娘とは週末だけ一緒に過ごすという、既存の価値観にとらわれない都会生活を送っている。母の60歳の誕生日に帰郷したクララは、生き方は自分で決めるという理想を改めて見つめ直すことになる。自由な生き方の代償とは? アニカ・ピンスケの長編デビューとなる本作は、いまだに解消されない東西格差、都市と地方、家族とキャリアのはざまでゆれる現代女性の葛藤を、ユーモラスで鋭い会話と的確な人間描写によって丁寧に描きだしている。

日本初公開 Japanese Premiere

Alle reden übers Wetter

焦燥の夏

監督:サブリーナ・サラビ/ドイツ/2021年/116分



ドイツ北部メクレンブルク地方の片田舎。24歳のクリスティン、長年の恋人ヤンの実家である酪農家に同居し、牛舎での仕事を手伝っている。子供時代を彩った東西ドイツ統一後の楽観的な雰囲気は、とうに消えている。彼との関係もうまくいかず、酒で苦し紛らわしては、殺伐とした日常から抜け出すことを思い描くだけの日々。真夏の陽射しの下で、時間は止まっているかのようだ。そこに風力発電のエンジニア、クラウドがハンブルクからやってきて、世界が再び巡り始める。長編2作目となるサブリーナ・サラビ監督は、ありふれた田舎の日常を官能的で雰囲気満ちた世界に変容させた。主演のサスキア・ローゼンダールは、圧倒的な演技で第74回ロカルノ映画祭最優秀女優賞を受賞した。

日本初公開 Japanese Premiere

第74回ロカルノ映画祭優秀俳優賞

Niemand ist bei den Kälbern

SCHEDULE

20 [木]	特別先行上映 10:20-13:57 バッハマン先生 の教室 Herr Bachmann und seine Klasse			オープニングトーク & 上映 19:00-21:20 フェモクラシー 不屈の女たち Festivaleröffnung & Die Unbeugsamen
	10:20-12:50 ディア・トーマス 東西ドイツの狭間で Lieber Thomas	13:50-15:09 私はニコ Nico	16:00-17:56 焦燥の夏 Niemand ist bei den Kälbern	19:00-20:59 クルナス母さん vs. アメリカ大統領 Rabiye Kurnaz vs. George W. Bush
22 [土]	10:30-12:29 クルナス母さん vs. アメリカ大統領 Rabiye Kurnaz vs. George W. Bush	13:20-14:49 あしたの空模様 Alle reden übers Wetter	15:50-18:20 ディア・トーマス 東西ドイツの狭間で Lieber Thomas	19:20-20:39 私はニコ Nico
	10:30-12:10 フェモクラシー 不屈の女たち Die Unbeugsamen	13:00-14:56 焦燥の夏 Niemand ist bei den Kälbern	15:15-18:52 バッハマン先生 の教室 Herr Bachmann und seine Klasse	19:40-21:09 あしたの空模様 Alle reden übers Wetter

各作品の監督とのオンラインQ&Aを予定しています。Q&Aのスケジュールは決まり次第、ゲーテ・インスティテュート東京のホームページにて発表します。
<https://www.goethe.de/tokyo/HORIZONTE2023>

ドイツ映画祭「HORIZONTE」とは?

ドイツ映画祭「HORIZONTE」はゲーテ・インスティテュート東京が隔年で開催している映画祭です。ベルリン国際映画祭で上映された作品を中心に、最新のドイツ映画の中から選りすぐった秀作を一挙に上映し、ドイツ映画の「今」を映し出すラインアップを揃えています。ゲーテ・インスティテュートは、世界98カ国158拠点で活動する、ドイツ連邦共和国の公的文化機関です。ドイツに関わるすべての人のパートナーとして、カルチャーイベント、図書館、ドイツ語コース、ドイツ語検定試験を提供しています。東京には1962年に開設され、60年以上にわたり日本国内のパートナー機関とともに日本とドイツの文化交流を促進しています。

最新情報は特設サイトまたはSNSをチェック!

特設サイト www.goethe.de/tokyo/HORIZONTE2023 | Instagram & Facebook @goethe.institut.tokyo | Twitter @GI_Tokyo

#ドイツ映画祭2023 #ゲーテ東京

TICKET

ユーロスペース公式ウェブサイト、劇場窓口 (3F) にて販売! <各回全席指定>

一般1,500円

シニア・ユーロスペース会員1,200円

25歳以下1,000円

特別先行販売 4月1日[土] - 4月16日[日]1,300円

- 各回全席指定 ●オンラインチケットのみの販売です。劇場窓口でのお取り扱いはありません。
- 25歳以下の方は先行販売も1,000円でお求めいただけます。

オンラインチケット <https://www.eurospace.co.jp/>

- 「特別先行販売」期間以降は、ご鑑賞日の3日前から、各回開始1時間前まで販売いたします。
 - 各種クレジットカードでのご購入が可能です。
 - U25・シニア・会員料金をご利用のお客様は、ご入場時に各種証明書をご提示ください。
 - ご鑑賞までに劇場ロビーにある専用発券機でチケットをお受け取りください。
- 発券機が混雑する場合がございますので早目のご来場をお勧めいたします。

劇場窓口 (3F) での販売

- ご鑑賞の3日前から販売いたします。
- U25・シニア・会員料金をご利用のお客様は、ご入場時に各種証明書をご提示ください。



ユーロライブ
EuroLive
by EuroSpace

渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 2F
TEL: 03-6675-5681